

皆様初めまして。昨年4月より、おとのもり芸術文化振興協会の学藝顧問を務めております、ピアニストの上原琢矢です。

この一年、様々な挑戦をさせて頂きました。芸術の力で人々と繋がり、その感動を共有できる喜びを日々噛み締めています。徹底的なリサーチをもとに、音楽の明るい未来を掴むための的確な一手を打ち続ける佐伯佐和子氏に、深く感謝と敬意の意を表します。

お陰さまで4月から引き続き学藝顧問を任せて頂くことになりましたので、これまでを振り返りながら、活動への想いとその背景をコラムを通じて皆様にお伝えさせていただきたく存じます。

楽しみ方が多様化した今、音楽に関しても、多くの人の日常に溶け込むとともにその輪が広がりやすい時代になりました。急速に可能性を広げているジャンルもある中、クラシック音楽業界は苦戦しています。伝統を重んじる分野なので高度な技術と強い結束力がありますが、その分殻を破ることが非常に難しいのです。ファンが離れ、衰退が進んでいる今、表面的に流行を取り入れるのではなく抜本的に見直す必要があります。私がピアニストになりたいと思い始めた小学校4年生の頃から既に衰退の芽はありましたが、それでも断念しなかったのは、必ず返り咲くと信じられるだけの力がそこにあったからです。厳しい鍛錬を重ね、伝統を背負って煌々と輝く本来のクラシックには絶対的な価値があります。正しい価値が認められる世の中に戻したいという思いから、将来はそのために動くピアニストになる、と心に決めていました。

しかし現実はそのようにはいかず、これまでの演奏会では簡単に従来のスタイルを飛び越えることはできませんでした。方向性を変え、**SNS**を利用すれば一人であっても新たな試みを展開できるかもしれないと淡い期待を寄せて、その手段を模索した時期もありましたが、最終的にはこちらも思い止まりました。クラシック界がこれまで守ってきた誇りを投げ捨てるのは現状の改善には繋がらないと気付いたからです。いつからか目の前の仕事以外のことは考えなくなっていました。

目的を見失いつつあった時に、学藝顧問のお話を頂いたのです。それまではほぼコンサートとレッスンのみでピアニストとして一般的な仕事しか経験していませんでしたから、その先に何が待っているか想像できずにいましたが、先が読めないからこそその希望を感じていました。コロナによる自粛の真っ只中で最初はなかなか動けずにいたものの、6月には**MAKE IT BLUE JAPAN**への賛同事業でオンラインライブを行ない、このあたりから自分自身の意志も蘇った気がします。過酷な現場で闘っている医療関係者に演奏で感謝を届けるという時間の中で、音楽は依存を生み出し消費させるためではなく、心を繋いで助け合うためにあるのだと強く思いました。

10月からはラジオのパーソナリティとして**OIBC** いこらじお『**Whole Earth MUSIC!**』の番組内コーナー『**SALTY BLUE**』を任せて頂き、クラシック音楽の

魅力を伝える為、毎週制作に励んでいます。私自身がピアニストということでピアノ作品に絞っていますが、このコーナーではクラシックに馴染みのない方と作品の世界観を共有することに主眼を置き、コンサートの前段階としてクラシックの本質的な楽しさを知って頂けるコンテンツ作りを目指しています。作品の解説はもちろん、演奏上工夫している箇所を隠し味として演奏を交えながら紹介しているのですが、インターネットラジオということで映像の配信も可能なので、作品のイメージを自らグラフィック化することで演奏者の視点をより理解しやすい構成にしています。ピアノとグラフィックというと一見無関係に見えますが、芸術は全て繋がっていますから、作品をご存知ない方にも音楽の景色を伝える手段となり、この新たなスタイルが自分自身の考えを更に深めることにも繋がりました。デザイナーだと思われてしまうことも度々ありますが、心を込めて頑張っている身としてはそれもまた嬉しい話です。(笑)

ネガティブな印象を持たれやすいクラシック音楽ですが、多角的なアプローチによって多くの方が楽しく平等に触れられるよう、今後も可能な限り活動を続けていきます。

前例が無いからこそ、当初は私自身も不安を感じつつ制作していた『**SALTY BLUE**』ですが、2クール目も無事に終わることができ、この半年間に積み上げたものを見返した瞬間、これも一つの正解であると確信しました。

表面的な手段は時代に合わせて変化し続けるべきですが、クラシックの演奏者には清廉な生き方を守り継承していく責任があります。全てが音に映し出され、触れた相手を照らすことも汚すこともできる力を持っているからです。音楽作品という器に天然水を注ぐのか、炭酸ジュースを注ぐのか、価値観は人それぞれですが、私は前者を実現できるようこれからも自らの音楽性、人間性を磨きます。

